



見沼自然散策

2023.10.13



見沼たんぼ地域ガイドクラブ



マテバシイ



クヌギ



コナラ



シラカシ



スガイ

ドングリは実に養分を貯めて落とし、ネズミやリス、鳥などが冬の貯えに運ぶことで分布を広げる。殻・実の形はそれぞれに個性的

ケヤキは小さな葉がついた枝に実をつけ、風に種を預ける。アキニレの実は周りに薄い膜をつけ、実も薄い



アキニレ



ケヤキ



ジョロウグモ



金色の網

ジョロウグモが目立つ季節大きな円網は日が当たると金色に輝く。横糸は獲物を捕らえるための糸で黄色い粘液がついているから縦糸はクモが歩くための糸でねばらず、獲物を待つときも縦糸に肢を置き、獲物がかかると振動を感じ、移動する



ウラナミシジミ



モズ・オス

◀モズの高鳴きが聞こえる。秋になると、子育てが終わった成鳥も、今年生まれもの若鳥も、それぞれに縄張りを持つ。高いところにとまって「キチキチキチ！」と縄張りを主張する

ウラナミシジミは南の国で冬を越し、世代交代をくり返しながらか次第に北へも生息域を広げる。しかし、この辺りでは越冬できないため、見られるのは秋だけ

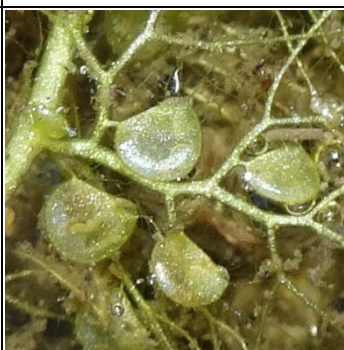


ウスバキトンボ

ウスバキトンボも南の国生まれの旅するトンボ。この辺りでは秋に見られる



タヌキモ



タヌキモ捕虫囊

タヌキモは根を持たず、水面近くを浮遊する食虫植物葉の付け根の小さな袋が捕虫囊。ひらべったい形状で獲物が入り口付近に来ると口が開いてふくらみ、水と共に獲物を取り込む。捕らえた獲物は消化液を出して溶かし、養分を取り込む



タヌキモ花